

不登校、どうしたらいいの…

相談はどこに

学習支援の情報提供を

道内の2024年度の不登校児童・生徒は小学校4,554人中学校9,613人、高校922人と急増しています。特に中学校は2019年の約1.73倍に上りました。

日本共産党道議団は1月、旭川市内で不登校児童・生徒の居場所づくりや学習支援のとりくみを視察調査をしました。

保護者の方から「子どもが不登校になったときに支援の情報がなくて不安になりました」と声が寄せられ、3月議会一般質問でとりあげました。

どの子にも学習権の保障を



不登校が過去最高

過去最高となった不登校に対応するため、道教委は、不登校支援のためのガイドブックを作成し、ポータルサイトを公開しています。「24年度、不登校支援ポータルサイトに月平均で約900回のアクセスがあり昨年度比63%上回り、オンライン交流会での保護者アンケートでは、延べ250名から声が寄せられた。今後も引き続き、適切な情報提供と情報交換機会の確保を通じ、支援の充実に取り組む」と質問に答えました。しかし、不安の中で孤立しがちな当事者と保護者には充分届いていないのが現状です。

学習支援と成績評価への反映

視察先で、「フリースクールは出席扱いになっても、学校に登校していないことを理由に、成績は「1」と評価され、受験を控える生徒の進路が制限されてしまう」とお聞きました。

2024年8月の文科省通知では、欠席中の学習を成績に反映する要件が示されています。このことを指摘して質問すると、道教委は「不登校児童生徒の努力の成果について適切な評価を促進するという考え方が示された」と認めました。また、「不登校児童生徒の学校外での学習状況等を積極的に把握し、適切に評価するよう指導している。各学校で保護者や教育支援センター、フリースクール等と連携し、不



登校児童生徒が欠席中に行った学習の成果を成績に反映するよう努めている」と答えました。「1」の評価が続いている実態の改善が必要です。

どの子にも学習権を保障するためには、生徒の大多数が通う学校を「みんなが安心して学べる」場所にする、過度な競争と管理教育を改め、校則も見直すこと、少人数学級を推進し、教員の確保と働き方の見直しが不可欠です。同時に学校ではない環境で学ぶ場合に、学習権を保障する取り組みが求められています。



キノコ栽培を視察
ユキノシタなどを栽培し、キノコの普及を図っている旭川林産試験場の取り組みを視察しました。

アイヌ文化は継承を、差別の史実は記録を

伝承の課題聞いて対応を



2025年度第1回アイヌ政策推進交付金が、道内の10市25町に約18億円交付されます。しかし文化継承の現場では、比較的継承しやすいアイヌ刺繍やアイヌ舞踊などと違い、木彫やムックリなどは材料の入手や作り手が生活できる収入に届かないなどの課題があると聞き、アイヌ工芸・文化の継承について道の対応を質問しました。

象徴空間担当課長は、「担い手の高齢化が課題。アイヌ工芸家が経済的に安定した制作活動を行える環境づくりのために、工芸品の認知度向上や幅広い顧客層の獲得に努める」と答弁。真下議員は、地域ごとに違いのある実態をよく調査して対応するよう求めました。

真下議員は、4月8日の環境生活委員会でアイヌ文化・技術の継承と、博覧会におけるアイヌ差別について質問しました。

記録がない差別の歴史

4月13日から開催される大阪万博で、アイヌ文化を対外的に発信するためアイヌ舞踊等が披露されます。一方で「大阪万博には複雑な思いがある」という参加者の声があります。

真下議員は、1903年に大阪で開催された第5回内国勸業博覧会の民間パビリオンとして設置された「学術人類館」で、アイヌ民族などが生身で展示されていた事件等について道の見解を質しました。アイヌ政策推進局長は、「当時の報道によると「学術人類館においてアイヌ民族など先住民族が紹介された」と承知。このことに見解を示した認識はない。歴史的背景、アイヌ文化の価値などを正しく理解していただくことが何より重要」と答弁。

真下議員は研究論文を引用して「ヒューマンズー（人間動物園）」と呼ばれるアイヌ差別は「忘れてはならない歴史」とのべました。1903年に開催された大阪

内国博覧会では「人類館」として生身のアイヌが展示されたと指摘。1910年開催の日英博覧会后、1918年に開道50年として開催された北海道博覧会に連動して北海タイムス社が設置した「児童博」でも同様の展示がされていました。

札幌大学の研究所の論文には、札幌市大通西2丁目のアイヌ館という展示施設に日高アイヌの酋長夫妻を迎え、生身のアイヌの日常生活そのままを展示する手法がとられていたと紹介されています。

「札幌遊園地新興行地」内に「矢野動物園」と「アイヌ団」がともに配置されるという無神経な展示方法、動物園と同じ枠組みの中で本人たちの意思と関係なく、「北海道の象徴」としてクマとともに見世物にされるアイヌの姿が見いだされたとした論文内容も披露。アイヌ政策を担う道は、こうした史実、差別の実態を探し出し、記録し、保存し、伝える必要があると強調しました。このような差別



の歴史は、道議会でも初めて明らかにされたものです。

高見里佳アイヌ政策監は、「万博でのアイヌ舞踊の披露は、先住民族としての歴史や文化の対外的発信・普及啓発の取組であり、アイヌの方々の意向を丁寧に伺いながら進めている」と答弁。真下議員は、「道において、アイヌの先住民族として虐げられてきた史実や文化の記録を探し出し、一元的に保存して伝えていただきたい。アイヌ民族が複雑な思いを抱えることなく参加できるよう万博協会にも伝えること」を求めました。

道議会・道政へのご意見・ご要望をお寄せください

真下紀子事務所 旭川市3条16丁目7号 TEL 0166-20-0808 FAX 0166-20-1616 m.noriko.office@gmail.com

